

災害リスク管理のための 情報システムの構築

ナサルディン シアクアラ大学津波防災研究センター
Nasaruddin (TDMRC)



日本のみなさま、日本の事例についていろいろお話しいただき、情報共有をしてくださってありがとうございます。私からはアチェの災害リスクを減らすためのデータベースについて紹介します。時間が限られているので、今日は技術的なことよりも全体の概要がわかるようにお話ししたいと思います。

■ あらゆる災害の減災をめざす アチェ災害データベース=DIBA

私たちはアチェ災害データベース (Data & Informasi Bencana Aceh: DIBA) という災害データベースを作っています。そこには2004年以降アチェで起こったさまざまな災害についての統計が集められています。資料13-1を見ておわかりのように、アチェの災害は地震・津波だけではなくありません。

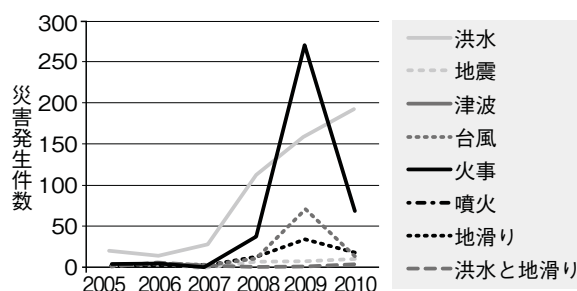
このようなシステムをつくっているのは、災害が起こったあとの対応のためでもあります。災害が起こる前の準備のためでもあります。

このデータベースにはさまざまな地図があります。リスクが起こりやすい地域、ふだんの状況、そのあとの評価のことも含めてさまざまな地図を私たちはつくっています。

資料13-2は災害リスク地図のつくり方の全体のモデルです。どのようなリスクがあるのか、つまり災害に対する脆弱性を合わせて地図をつくります。過去の災害情報も含めてデータベースに入れることで、今後起こりうる災害への対応を準備しています。また、それをオンラインに載せることで人びとに伝わるように努めています。

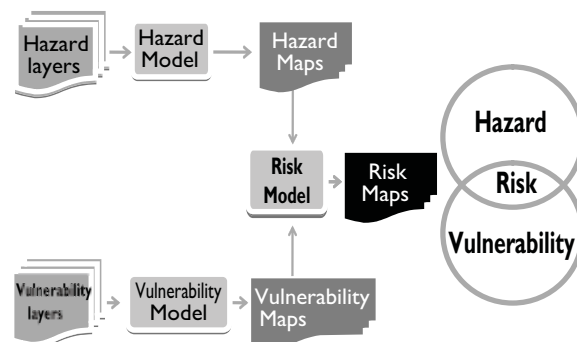
私たちは、さまざまなデータをつくり、それを必要としている人たちのあいだをつなぐものとしてデータベースを位置付けています。

このような取り組みを進めるにあたっては、さまざまな機関と協力しています。インドネシア全国レベルでもそうですし、海外の機関とも協力しています。私たちは住民に対して理解を求めるだけでなく、州政府



資料13-1 2004年以降の災害発生状況
<http://diba.acehprov.go.id/>

Correlation between hazard, vulnerability and risks

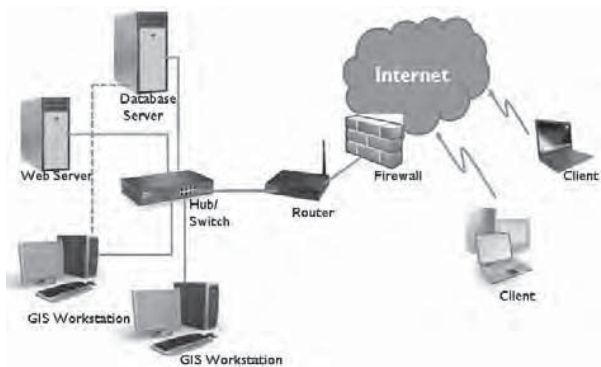


資料13-2 危険性と脆弱性を合わせた
災害リスク地図の作成法



資料13-3 データベース制作のためのワークショップ

に対しても理解を求め、同時に、州政府にどんなニーズがあるのかを確かめるワークショップなども開いています(資料13-3)。



資料13-4 将来めざすネットワーク像

■ 災害リスクに関する地図を複数つくり 多面的に減災を図る

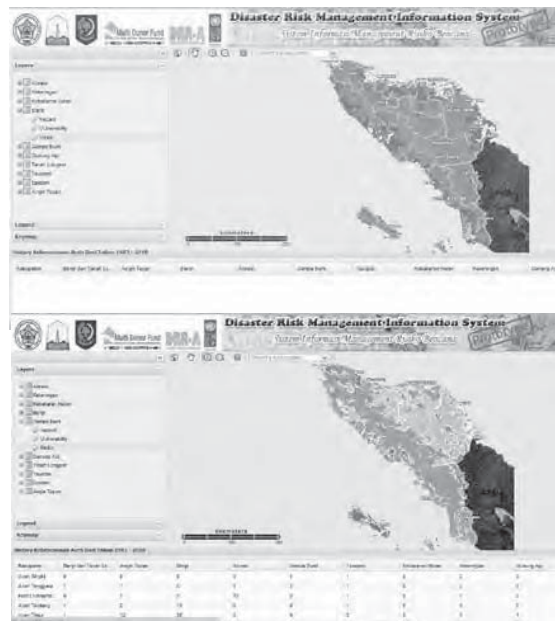
災害に関する地図づくりも進めています。どんなところで実際に災害が起きているのかなどの情報を載せる地図です。全体としては、資料13-4に示したようなネットワークをつくりたいと思っています。

私たちがもっているデータベースは、いくつかのブロックに分けて考えています。同じ情報をオンラインと紙のかたちと両方で整理しています。オンライン上のは常時アップデートするもの、紙のものは定期的にアップデートするものと使いわけています。

資料13-5は地震リスクマップと洪水リスクマップです。このように災害リスクに関する地図を複数つくり、多方向的にアプローチしています。

質疑応答

質問者 ナサルディンさんに質問です。この災害リスク・マップができれば次の段階に考えられるのはどん



資料13-5 洪水リスクマップ(上)と
地震リスクマップ(下)

なことでしょうか。たとえば、災害前に建物をどのように建てるのかとか、道路をどこにつくったらいのかとか、災害が起こったときにどこに支援をしたらいいのかとかいうことについて、災害リスク・マップができればどのような使い方が可能になるでしょうか。
ナサルディン 私たちは災害リスク・マップを実際の社会開発に役立てようとしており、実際に州の開発局にも情報を提供しています。ただし、問題は災害リスク・マップのデータが毎年変わってしまうことです。そのような状況で、それらのマップをもとにした開発を進めるという難しい課題に私たちは取り組まなければいけない状況にあります。